

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	キャリア教育の推進を通して各学部の教育内容・方法を見直し、系統性・一貫性のある教育課程を編成し、授業改善に取り組む。	①本校のキャリア教育の考え方を定着させ、新学習指導要領に基づいた系統性・一貫性のある教育を目指し、学部間・部門間で連携しながら授業実践・授業研究・授業改善に取り組む。 ②児童・生徒が学びやすい学習環境を整備する。	①各学部・部門での授業実践及びアシストミーティングの実施、ICT機器・アプリの活用に関する研究に日々取り組みながら授業研究・授業改善を進める。 ②ユニバーサルデザインの視点で教室内外掲示物の工夫や学部カラーでのエリア表示、図書室の再整備・活用、耐震工事を見据えた物品等の整理等に取り組む。 ③教育課程検討会議を設置・開催し、新学習指導要領の内容を理解した上で各学部の教育課程のあり方について検証する。	①キャリア教育の考え方が定着するとともに、授業研究・改善が進んだか。(教職員対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ②児童・生徒が学びやすい学習環境が整備できたか(教職員対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ③新学習指導要領に基づき、系統性・一貫性のある教育課程の編成ができたか(教職員対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。					
2 児童生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりが健康で安全に、かつ、安心して教育活動に取り組めるよう専門性の高い指導を行うとともに校内指導体制を整備する。	①「学部コーディネーター」を核とした学部・部門内での相談・支援の充実を図る。 ②ヒヤリハットの集約・共有に引き続き取り組むとともに、対応策を確実に共有・実施し、いじめ・体罰・セクハラ・等の根絶に取り組む、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送れるようにする。	①各学部の「学部コーディネーター」が中心となり、学部長・PT・OT等と連携したり「校内相談シート」等を活用したりしながらケース会議等を実施し、支援に取り組む。 ②ヒヤリハットの集約・共有の取組意義を確認し、朝の打合せ等において速やかに全教職員でヒヤリハット事例を共有し、対応策を確認する。 ③児童・生徒同士の好ましい人間関係作りや教職員間で情報共有やお互いに注意し合える風通しの良い職場環境作り、研修の実施に取り組む。	①「学部コーディネーター」を核に、各学部内での相談・支援が充実したか(教職員・保護者対象のアンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ②ヒヤリハットの報告書が昨年度の件数(80件)を上回ったか。また、対応策を共有し実施できたか(教職員対象のアンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ③いじめ・体罰・セクハラ等がなかったか(審議件数10件以上、研修会3回以上)。					
3 進路指導・ 支援	児童・生徒一人ひとりが卒業後に地域社会で自分らしく暮らせるよう、個々のライフキャリア・ワークキャ	①小学部段階から保護者向けの進路学習会等を計画・実施し、進路支援に関する関心・理解を高める。	①小学部、中学部、高等部でそれぞれの段階での進路・支援の研修会を計画・実施する。	①進路学習会を実施し、参加した保護者の関心度・理解度が高まったか(参加保護者アンケートによる5段階評価で3.5以上)。					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		リアを見据えた進路指導・支援を行う。	②キャリア教育の視点を踏まえて、進路に関する学習の整理を進め、実践を通して検証し、改善に取り組む。	②作業班の見直し、校内実習の取組、清掃技能検定への参加等について実践・検証を行い、他の進路に関する授業等についても見直し・改善に取り組む。	②進路に関する学習についてキャリア教育の視点を踏まえた内容に整理・改善できたか(教職員・生徒対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。					
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域との交流の機会を積極的に設定し、交流を深めることを通して共生社会の具現化に貢献する。	①教育相談コーディネーターを核に校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを充実させる。 ②井田小・住吉高に加え中学校との交流について検討・実施につなげるとともに、学校運営協議会の活動等を通してポッチャを中心にパラスポーツを通じて地域の方との交流の機会を増やす。	①地域の小学校等へ出向く際に、「学部コーディネーター」も同行し学校コンサルテーションを行う。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進について、それぞれプロジェクトチームを中心に、各学部・部門と意見交換しながら進める。 ③協議会全体会及び各部会への委員の出席率が高まるよう、また、関係教職員も部会に参加しやすくなるよう日時やテーマ設定を工夫し、議論が活発になるようにする。	①校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを実施できたか(「学部コーディネーター」一人当たり1回以上実施)。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進を通じた地域との交流が計画・実施できたか(教職員・生徒・地域対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ③学校運営協議会の活動を通して、コミュニティ・スクールが校内外に根付いたか(教職員・学校運営協議会委員対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。					
5	学校管理 学校運営	専門性の高い人材の育成と保護者や地域から信頼・信用されるよう開かれた風通しの良い学校づくりを行う。	①「中原スタンダード」(本校の研修体系)に基づき校内研修を実施し、教職員の専門性の向上を図るとともに、研修体系の内容について検証・改善に取り組む。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事を根絶するとともに、防災教育・訓練を充実させ、安心・安全な学校づくりに取り組む。	①「中原スタンダード」の研修内容を実施し、参加教職員からのアンケート等を基に研修内容・実施方法等について検証・精査する。 ②個人情報・文書取扱いのルールの徹底とヒヤリハット事例の集約・共有を行う。 ③DIGや非常食喫食訓練・非通知のシェイクアウト等、実際に想定した防災教育・訓練を近隣関係機関や保護者の参加・見学も含め実施できるよう計画する。	①「中原スタンダード」に基づいた校内研修を実施し、教職員の専門性の向上につながったか、また、研修内容等について整理・改善できたか(教職員対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事がなかったか(個人情報・文書取扱いに関する事故報告の件数0件)。 ③実際に想定した防災教育・訓練を実施できたか(教職員・保護者・生徒対象アンケートによる5段階評価で3.5以上)。					

※客観的評価の基準として、「肯定的評価〇%以上」から、「5段階評価で〇以上」と変更する。

※よって、保護者、教職員、生徒アンケートの評価の基準も5段階評価とする。